

コマンドクイックリファレンス

WebFOCUS上級コース 付録

WebFOCUS で使用頻度の高いコマンドをまとめたクイックリファレンスです。
※ コマンドの詳細は『WebFOCUS Language リファレンス』、関数の詳細は『WebFOCUS 関数リファレンス』をご覧ください。

Copyright(C) 2013 K.K. Ashisuto All Rights Reserved.

✓ 基本的なコマンド

基本的なレポートの作成

```
TABLE FILE マスターファイル名  
{ PRINT | SUM } 項目名1 項目名2 ... 項目名n  
BY { LOWEST | HIGHEST } 項目名  
ACROSS { LOWEST | HIGHEST } 項目名  
END
```

ENDは改行してから入力する。(他のコマンドと同じ行には記述できない。)

✓ 項目のオプション設定

項目の非表示

```
項目名 NOPRINT
```

項目のカラムタイトル

```
項目名 AS 'タイトル'
```

PRINTまたはSUM項目のフォーマット

```
{ PRINT | SUM } 項目名/フォーマット
```

フォーマット

文字タイプ	A
数値タイプ	I (整数タイプ)、F、D、P (実数タイプ) ※数値タイプの代表的な編集オプション %:データの末尾に「%」記号を付加 M:データの先頭に「¥」記号を付加
日付タイプ	YYMD

✓ 並び替えのオプション設定

集計値での並び替え

```
BY TOTAL 項目名
```

数値項目のグループ化

```
{ BY | ACROSS } 項目名 IN-GROUPS-OF 単位 [TOP 上限値]
```

並び替えたデータの上位(または下位)n件を表示

```
BY { HIGHEST | LOWEST } n 項目名
```

✓ 接頭語

接頭語の指定

```
{ PRINT | SUM } 接頭語. 項目名
```

接頭語

CNT	件数	CNT.DST	一意の件数	TOT	総合計 ※
AVE	平均値	PCT	縦合計の割合	ASQ	平方和平均 ※
MIN	最小値	RPCT	横合計の割合 ※	FST	最初の値 ※
MAX	最大値	PCT.CNT	件数の割合 ※	LST	最後の値 ※

※ 集計のSUMを指定しても、データベース側で集計処理が行われない接頭語。

✓ 選択条件

選択条件

```
WHERE 項目名 比較子 条件値 { AND | OR } 項目名 比較子 条件値
```

比較子

EQ	等しい	FROM TO	範囲内を検索
NE	等しくない	NOT FROM TO	範囲外を検索
GE	以上	CONTAINS	文字列を含む
GT	より大きい	OMITS	文字列を含まない
LE	以下	LIKE	文字列に一致する
LT	未満	NOT LIKE	文字列に一致しない

LIKE演算子では、マスク文字を使用して文字列の位置を指定したあいまい検索が可能。
マスク文字は、_(アンダーライン)が任意の1文字、%が任意のn文字を表す。

条件値

条件値が文字または日付の場合、'(シングルコーテーション)で囲む。

集計値に対する条件

```
WHERE TOTAL 項目名 比較子 条件値
```

NULL値を検索したい場合

```
WHERE 項目名 { EQ | NE } MISSING
```

データの件数の制限

```
WHERE { READLIMIT | RECORDLIMIT } EQ n
```

READLIMIT

データベースから取得する件数に制限をかけます。検索対象がRDBMSの場合に使用。

RECORDLIMIT

レポートに表示する件数に制限をかけます。検索対象がFOCUSデータベースやHOLDファイルの場合に使用。

✓ 一時項目

COMPUTE

```
TABLE FILE マスターファイル名  
{ PRINT | SUM } COMPUTE 一時項目名/フォーマット = 演算式 ;  
:  
END
```

DEFINE

```
DEFINE FILE マスターファイル名  
一時項目名/フォーマット = 演算式 ;  
END
```

演算式にはWebFOCUSの関数を指定可能。代表的な関数は裏面を参照。

✓ ファイル出力

クライアント側へ出力

```
ON TABLE PCHOLD [FORMAT 出力形式]
```

サーバ側へ出力

```
ON TABLE HOLD [AS ファイル名] [FORMAT 出力形式]
```

出力形式のコマンド

HTML	HTML形式	ALPHA	固定長テキストファイル形式
PDF	PDF形式	BINARY	バイナリ形式
EXL2K	Excel2000形式	COM	CSV形式
XLSX	Excel2007形式	COMT	CSV形式 (見出し付き)

✓ 合計値の表示

行合計

```
ON TABLE ROW-TOTAL
```

列合計

```
ON TABLE COLUMN-TOTAL
```

中間合計(単純な縦合計)

```
BY 項目名  
ON 項目名 { SUBTOTAL | SUB-TOTAL }  
SUBTOTALは指定した区分のみ、SUB-TOTALは指定した区分以上で合計値を表示。
```

中間合計(再計算)

```
BY 項目名  
ON 項目名 { RECOMPUTE | SUMMARIZE }  
RECOMPUTEは指定した区分のみ、SUMMARIZEは指定した区分以上で合計値を表示。
```



コマンドクイックリファレンス

WebFOCUS上級コース 付録

WebFOCUS で使用頻度の高いコマンドをまとめたクイックリファレンスです。
※ コマンドの詳細は『WebFOCUS Language リファレンス』、関数の詳細は『WebFOCUS 関数リファレンス』をご覧ください。

Copyright(C) 2013 K.K. Ashisuto All Rights Reserved.

✓ データの結合

JOIN

INNER JOINの場合 (通常のJOIN)

```
JOIN キー項目名1 IN ファイル名1 TO { MULTIPLE | UNIQUE }  
キー項目名2 IN ファイル名2 TAG タグ名 AS JOIN名  
END
```

LEFT OUTER JOINの場合

JOIN

```
LEFT_OUTER キー項目名1 IN ファイル名1 TO { MULTIPLE | UNIQUE }  
キー項目名2 IN ファイル名2 TAG タグ名 AS JOIN名  
END
```

MATCH

MATCH FILE OLDファイル名

SUM 項目名 [項目名 ...]

BY キー項目名 [BY キー項目名 ...]

RUN

FILE NEWファイル名

SUM 項目名 [項目名 ...]

BY キー項目名 [AS MATCHエイリアス名]

[BY キー項目名 AS MATCHエイリアス名 ...]

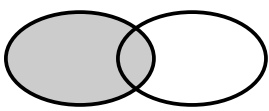
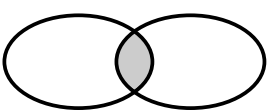
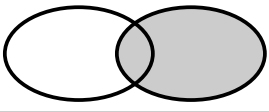
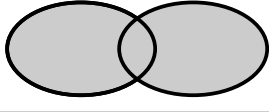
AFTER MATCH HOLD [AS HOLDファイル名] MATCH句

END

MATCHエイリアス名

OLDファイルとNEWファイルのキー項目名が異なる場合、OLDファイル側のキー項目名を指定。

よく使用するMATCH句

OLD (OLDファイル側のデータを全て表示)	OLD-AND-NEW (2つのファイルに共通して存在するデータを表示)
	
NEW (NEWファイル側のデータを全て表示)	OLD-OR-NEW (全てのデータを表示)
	

JOINは「OLD」(LEFT OUTER JOIN)と「OLD-AND-NEW」(INNER JOIN)が可能。

✓ 関数

よく使用する関数

項目名 | 項目名 文字列の結合
EDIT(項目名, '編集形式') 文字列の抜き出し
DECODE 項目名(検索値1 置換値1 ... ELSE 置換値n) データ値の置き換え
IF 項目名 比較子 条件値 THEN 値1 ELSE 値2 条件付き演算
EDITの編集形式: 「9」が抜き出す文字、「\$」が抜き出さない文字を表す。

フォーマット変換

EDIT(項目名) 数値タイプ⇔文字タイプ
FTOA(数値項目, '(フォーマット)', 出力) 数値タイプ⇒文字タイプ
一時項目名 /I8YYMD = 日付項目 日付タイプ⇒数値タイプ
一時項目名 /A8YYMD = 日付項目 日付タイプ⇒文字タイプ

日付タイプ項目の日付演算

日付項目 ± n 日付の加減算
日付項目 - 日付項目 日数差計算
DATEADD(日付, 単位, 単位の数) 日付の加減算
DATEMOV(データ, 'キーワード') 特定の日付を求める
DPART(日付, '日付要素', 'フォーマット') 日付の構成要素の抜き出し
DATEDIF(開始日, 終了日, '日付要素', 'フォーマット') 日付の差を求める
DATEMOVのキーワード: BOM(月初), EOM(月末), BOW(週の初日), EOW(週末)など。

日付タイプへの変換、または日付タイプからの変換

DATECVT(データ, '変換前のフォーマット', '変換後のフォーマット')
変数の値で日付タイプ項目の日付演算 (DATEADDやDATEMOV)を行いたい場合は、一度DATECVT関数で日付タイプに変換した後に指定する。

&変数や数値タイプ項目の日付演算

AYMD(日付, 日数, 'I8') 日付の加減算
AYM(日付, 月数, 'I6') 月の加減算
YMD(開始日, 終了日) 日数差計算
YM(開始月, 終了月, 'フォーマット') 月数差計算
AYM関数の日付とYM関数の開始月と終了月には、年月の値を指定する。

SQLへの変換について (Oracle Database 11g Enterprise Editionを使用しています。)

関数	SQL変換	関数	SQL変換
(文字列結合)	○	日付項目 ± n	×
EDIT	○	日付項目 - 日付項目	○
DECODE	○	DATEADD	○
IF THEN ELSE	○	DPART	○
フォーマット変換	×	DATEMOV	×
DATECVT	×	DATEDIF ※	○

※DATEDIFは日付単位(D)のみSQLに変換される。

✓ SETコマンド

TABLEリクエストの前やプロファイル中に指定する

SET パラメータ = 値

TABLEリクエスト中に指定する

ON TABLE SET パラメータ 値

よく使用するSETのパラメータ

SET NODATA = '文字列'	NULL値の表示を変更
SET BYDISPLAY = ON	BY項目の値を全て表示
SET LINES = n	1ページ中の行数を制御
SET CENT-ZERO = ON	1の位の0を表示

SETコマンドの設定確認

? SET ALL

✓ 変数値の設定

変数値を設定する

-SET &変数名 = { 値 | 演算式 } ;

演算式には四則演算やWebFOCUSの関数を指定可能。

✓ トレースの取得

トレースの「STMTRACE」と「SQLAGGR」を取得するコマンド

```
SET TRACEOFF = ALL  
SET TRACEON = STMTRACE//CLIENT  
SET TRACEON = SQLAGGR//CLIENT  
SET TRACEUSER = ON
```

データベースへの問合せを抑制するコマンド

```
SET XRETRIEVAL = OFF
```

✓ デバック関連

コメントアウト

-*

プロシジャを終了する (指定した場所以降を実行しない)

-EXIT

実行結果のソース中に、プロシジャの内容を出力する

-SET &ECHO = { OFF | ON | ALL }

OFFは何も出力しない。ONはダイアログマネージャ (-SETや-IF) 以外のコマンドの出力、ALLはダイアログマネージャを含めた全コマンドを出力する。



ウラ